

滋賀県立高等専門学校
施設整備事業について
【事業概要】

令和5年8月24日
滋賀県高専設置準備室

- 滋賀県立高等専門学校は、「滋賀発で次代の社会を支える高等専門人材の育成」および「技術者育成・交流のハブとして地域産業・社会に貢献」を目的とする。

設置目的 ◎ 滋賀発で次代の社会を支える高等専門人材の育成 (→2)

滋賀県立高等専門学校は、これからの滋賀や社会を支える価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む高等専門人材を育てていくことを目的とする



滋賀県立高等専門学校

◎ 技術者育成・交流のハブとして地域産業・社会に貢献 (→3)

滋賀県立高等専門学校は、技術を通じてあらゆる世代の人々が行き交い、様々な学びと実践の機会を提供する場として、地域の産業および社会に貢献していくことを目的とする

設置意義

学生

◎ 様々なキャリアパスにつながる学びの提供 (15歳の新たな選択肢)

産業界のニーズや今後の社会動向を踏まえた技術人材の育成に向け、情報技術をベースとした多様な学びが可能となる環境を整備することで、様々なキャリアパスにつなげることができる

産業界

◎ 共創による産業の活性化

産業界との共創を実現することで、地域に根差しつつ世界を見据えた高度な技術人材の輩出や新たな産業の創出など、産業のさらなる活性化につなげることができる

地域

◎ 地域と地球の課題の解決

リスキリング教育の提供や地域と地球の課題の解決に向けた協働取組の実施など、高専という場を通して人や技術、課題の対流を生み出すことができる

2. 学びの内容(AP、DP)：育成する人物像

2

- 意識・姿勢や素養・資質およびスキルを持って、社会のニーズを汲み、考えを伝え、かたち創ることを通して、他者の共感を得ながら新たな価値を創造することができる人材を育成する。

入学者のイメージ(AP)

- ・高専で学ぶための基礎学力を備え、幅広く学び続ける意欲を持っている人
- ・ものづくりやプログラミングなど、仕組みを考え、カタチにする能力を伸ばしたい人
- ・みんなの幸せを考えることができ、人のために役立ちたいと考えている人

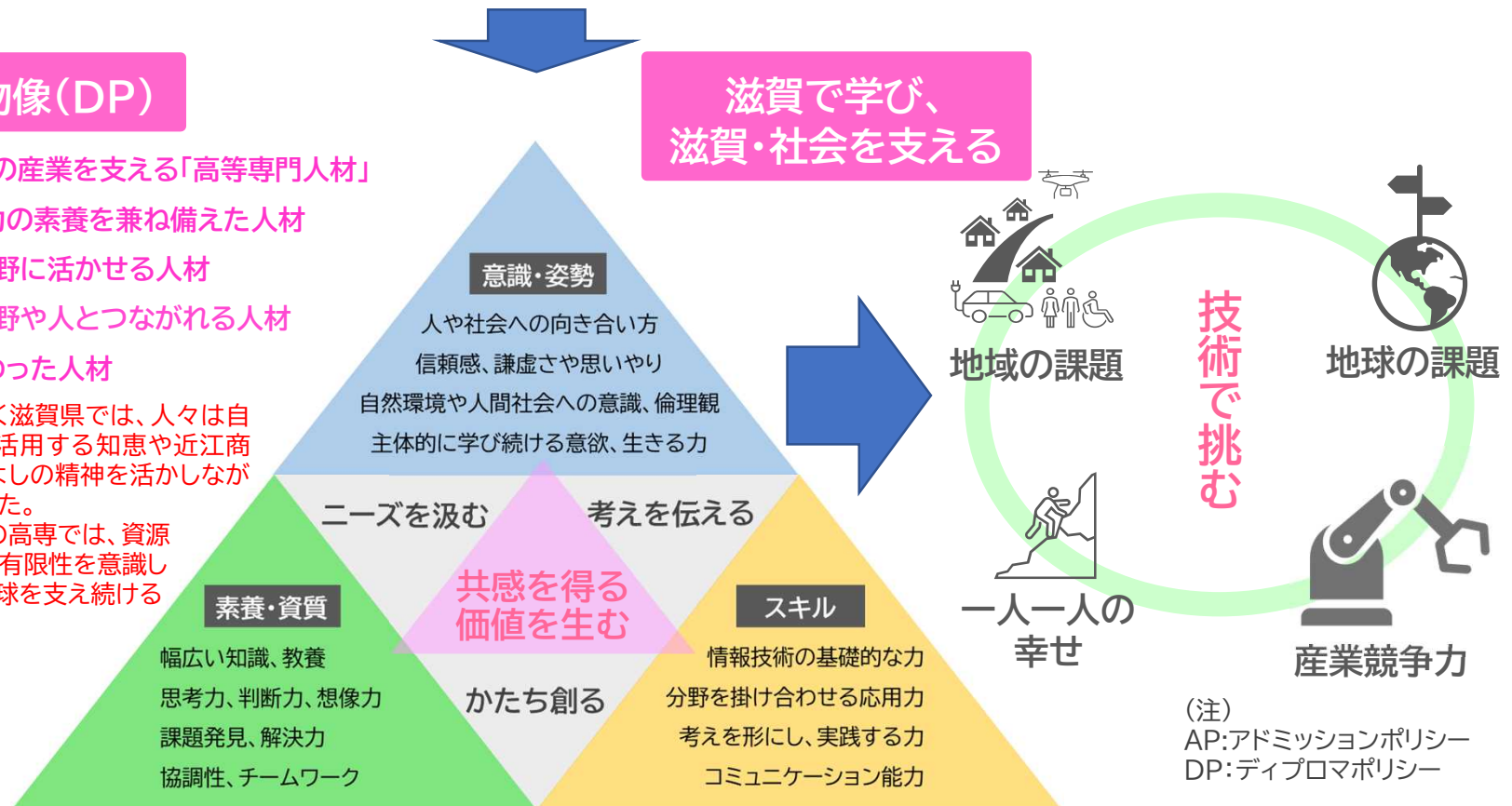
※入学者選抜→APを踏まえ、推薦選抜や学力選抜の手法について検討

育成する人物像(DP)

- 次代の滋賀とその産業を支える「高等専門人材」
- 問題発見・解決力の素養を兼ね備えた人材
- 情報技術を多分野に活かせる人材
- 世界の様々な分野や人とつながれる人材
- 近江の心^{*}が備わった人材

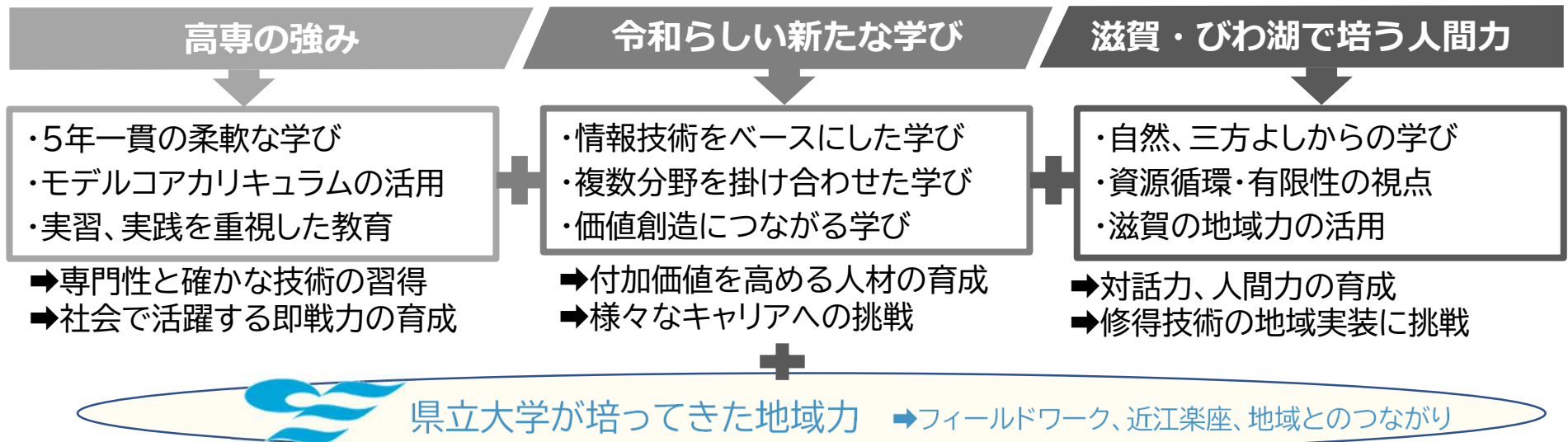
※琵琶湖を中央に抱く滋賀県では、人々は自然の恵みを持続的に活用する知恵や近江商人に代表される三方よしの精神を活かしながら暮らしをつないできた。

これを踏まえ、滋賀の高専では、資源循環の重要性、資源の有限性を意識しながら、全ての人と地球を支え続ける技術の修得を目指す。



2. 学びの内容(CP)：カリキュラムの方向性と特徴

○「高専の強み」に加え「令和らしさ」「滋賀らしさ」という特徴を、情報技術×実装×価値創造の切り口で具体化。さらに県立大学が培ってきた地域力や産業界の力を活かしたカリキュラムを編成



高専の体系的カリキュラム	令和らしく滋賀らしいカリキュラム		内容
	令和の基礎力	情報技術	
数学	令和の基礎力	情報技術	「数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム」に準じた科目の履修、IoT基礎技術の修得(リテラシー～応用基礎レベル)
専門科目	滋賀の実践力	実装トライ	技術が貢献できる地域の現場課題を見出し、技術実装に挑戦(DX、資源循環など工業以外の分野も対象) ⇒在学中から実社会の現場(企業、地域)で失敗をおそれず挑戦する
一般教養	三方よしの対話力	価値創造デザイン	前例にとらわれず、他者の共感を得ながら自分の考えを表現し提案していく力を修得(キャリアデザイン、気配り・倫理観に基づく人間力など) ⇒アート感覚や経営感覚を備え、対話を通じ異分野ともつながれる
外国語	高専生の構想力	卒業研究など	学んできた知識や技術を総合し、社会に向き合っていくための研究(インターンシップ、PBL型研究など)

(注)CP:カリキュラムポリシー

2. 学びの内容(CP)：学びの体系

- 1年次は情報技術の考え方を基礎として学び、2年次以降、専門コースを掛け合わせて学ぶ。
- 機械系・電気電子系・情報技術系・建設系の4つの専門コースにより応用専門知識・技術を身に付ける柔軟な学び
- この学びの体系を具体化する教員(校長、各コース長等)を選任する。

様々なキャリアへの挑戦

起業、分析研究

自然エネルギー

スマートファクトリー

デジタルホスピタル

スマート農林水産業

衛星データ活用

ロボティクス

交通・物流

建設DX、インフラ維持管理

エンジニア

工場長

事業承継

就職

起業

進学

5年生

地域の現場課題を見出し、技術実装に挑戦する力、人との対話を通じ社会へ提案していく力

滋賀の地域を活かした学び

環境・エネルギー
・資源循環

企業フィールド
での実習

地域コミュニティ・防災

技術者との交流

農林水産業のDX

共同研究

看護・医療

専門の応用知識や技術を身に付けるコース別の学び(2年次以降)

機械系

電気電子系

情報技術系

建設系
(環境・インフラ系)

3年生

2年生

1年生

高専の体系的カリキュラム

県・地球の
課題等



市町×
産業界

キャリア教育を踏まえたコース選択

総合学科:「情報技術」を基盤とした学び(1年次)

- ダイバーシティの観点は学びを充実させ、人々が集う高専につながる。
- 性別・年齢・国籍・障害の有無にかかわらず、多様な人が集い、学べる環境を整備するために、学びの内容や施設・設備の検討を行っていく。

滋賀県立高等専門学校



学生目線を大切にした学びの内容、施設・設備の検討など、学生支援の専門家の視点も加えた学校づくりをすすめていく。

学習面



学びの提供方法への工夫

国籍や文化・障害・性自認などのダイバーシティを前提に、あらゆる学生が心地よく修学できるための学びの提供方法を検討



ダイバーシティ理解の促進

授業や研修を通じて、学校全体のダイバーシティに関する理解を促進するための学びの内容を検討



素敵な先輩の活躍

小中学生に向けて、高専で学ぶ多様な学生の姿を見てもらい、技術教育やキャリアパスにおけるジェンダー意識を緩和

施設・設備面(ユニバーサルデザイン)



国籍・文化の多様性

異なる国籍や文化、母語を持つ学生が共有することを前提とした施設・設備



バリアフリー

あらゆる学生が不自由なく学生生活を過ごせるバリアフリーな施設・設備



ジェンダーの観点

全ての学生が心地よく学生生活を過ごせる施設・設備

3. 設置場所：校地の特徴と周辺環境、諸条件

- 令和4年9月、設置場所をJR野洲駅から1.3kmの野洲市市三宅と決定
- 用地は、県有地と国有地併せて約15万㎡からなり、県内外からの良好な交通アクセス
- 県有地部分は、一帯が自然林となっており、一部を緑地として保全・活用することを検討

JR野洲駅から1.3 KM (徒歩約17分)



県有地 (43,178㎡)		国有地 (106,500㎡)	
項目	内容	項目	内容
所在地	野洲市市三宅	所在地	
現状	自然林	現状	河川側帯、土砂の仮置き、ヘリポート等の防災活用がされている
区域区分	市街化調整区域	その他の条件	河川管理施設等構造令に基づく河川側帯(第1種/第2種/第3種)
用途地域	なし		
建蔽率/容積率	70%/200% ^{※1}		
高さ制限	高度地区	なし	
	道路斜線	勾配1.25 ^{※2}	
	隣地斜線	勾配1.25 ^{※2}	
	北側斜線	必要に応じて定める	
	日影規制	必要に応じて定める	

※1 滋賀県条例「建築基準法に基づく建築物の形態規制」より
 ※2 「野洲市市街化調整区域における地区計画制度の適用基準」より

- 自然に囲まれた広大な校地と企業集積を活かした多様な教育・学生生活・実習フィールド。(企業や国土交通省との連携、将来性)
 - 市が国有地に河川防災ステーションとしてグラウンド等を整備。平常時は高専との一体的な活用を図る。(→コストの低減)
- 特徴的な教育環境(全国・世界を視野に入れた教育)を低コストで整備。

4. 施設と規模：入学定員と学生寮の設置

- 1学年120人とし、県内外から学生を受け入れ
- 多様性を考慮した学生寮を設置し、通学が困難な学生や留学生にも対応可能

県内外の
入学者想定



県内からの入学者見込

従来の
高専進学者

60人程度

+

新たな
高専進学者

30人程度

+

県外からの
入学者見込

30人程度

=

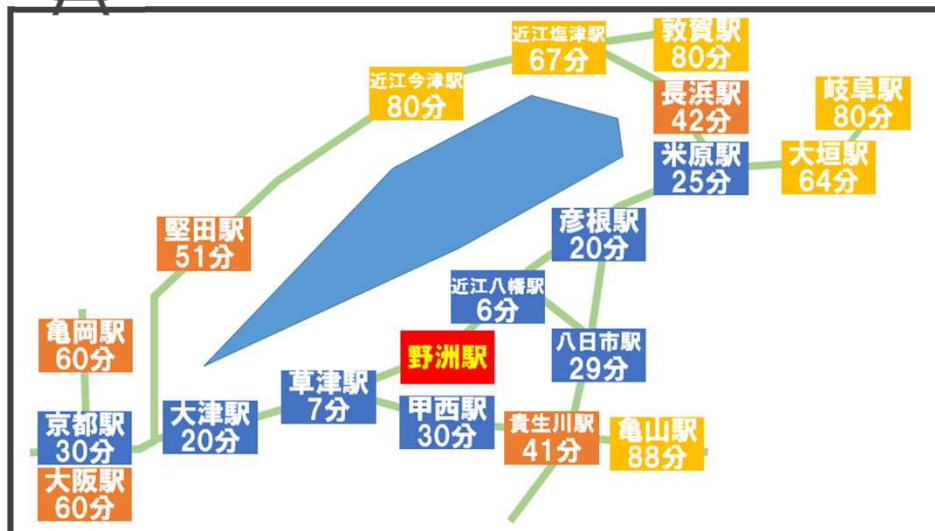
見込んでいる
県内外の入学者数

120人程度

・現在の各市町村別高専進学者数、・各市町村の将来人口減少率、
滋賀県立高専と近隣の高専との選択可能性に基づき算出



県内外からの通学時間例



学生寮の整備

- ・通学する学生と寮を活用する学生の割合などから規模を設定
- ・留学生にも対応できる国際寮タイプ
- ・バリアフリー対応の居室設置
- ・セキュリティの確保
- ・省エネ対応
- ・ネットワーク環境

開校予定（令和10年春）▼

▼文科省への認可申請（予定） ▼最終認可（見込）



	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
公募手続	PFI事業者 公募・選定				
	▲実施方針公表	▲入札公告	▲提案受付	▲事業契約	
PFI事業			基本・実施設計		建設工事
造成工事（県）	造成設計		造成工事		開校諸準備